opusdei.org

年間第13主日(A 年)福音書の黙想

年間第13主日(A年)の福音 朗読ではマタイによる福音書 8章5-17節が読まれます。マ タイ8・38-39についての聖ホ セマリアの言葉を紹介します (説教より抜粋)。

2023/06/30

「また、自分の十字架を担って わたしに従わない者は、わたし にふさわしくない」(マタイ 10·38)

「自分の命を得ようとする者は、それを失い、わたしのために命を失う者は、かえってそれを得るのである」(マタイ10・39)

「また、自分の十字架を担ってわた しに従わない者は、わたしにふさわ しくない」(マタイ10・38)

熱い礼拝の心、静かな落ち着きと苦痛を伴った償いの心、このような心をもった人は、「自分の十字架を担ってわたしに従わない者は、わたしにふさわしくない」
団というイエ

スの言葉の真意をよく理解し、そう。 忠告に文字通り従うことなり、「となり、ことなり、「ない」に対して生きるために(いって生きるためにもいてするように熱望するように熱望すると、燃求めてこのはかない、を求めてことが明らかになる」は、たちは、たちないないででででででででいる。

「わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず、虐げられても見捨てられず、打ち倒されても滅ぼされない。わたしたちは、いつもイエスの死を体にまとっています、イエスの命がこの体に現れるために」 [4]。

主が私たちに耳を傾けてくださらないとか、自分は欺かれているとか、

今こそ叫ぶ時です。私を希望で満たすためにあなたの約束を思い出まなと、惨めな状態においてもない。すると、生命は力るは、生むしいです。主はお望みです。主に頼らなけれを見るよりも明らか、また、主にもはいっまが強い。で、常に神のみ前を歩きの決意回が強められるのです。

活動していないかのような知性も、 神の光に照らされると、敵をも含め てすべての人々のためにすべてを配 慮なさる主が、その友である私たち にどれほどの心遣いを示してくださ るかを、はっきりと理解するように なる。いかなる悪や困難といえど も、何らかの方法で善のために役に 立つと確信するのです。すると、人 間的な理由によっては根こそぎにす ることのできないほど深い喜びと平 安が、心にしっかりと根をおろす。 悪や困難のく訪れ>は、必ず神的な 何かを残してくれるからです。そし て私たちは、感嘆すべきわざを行わ れた団主なる神を賛美し、また無限 の宝を所有する能力団を備えてくだ さったことを悟るのです。

(ホセマリア・エスクリバー『神の 朋友』304-305) 「自分の命を得ようとする者は、それを失い、わたしのために命を失う者は、かえってそれを得るのである」 (マタイ10・39)

私たちの信仰は重荷でも制限でもありません。そう考えるような資理について実にできるとするとなってを得ることがである。「自分の命を得ようとない、するとない、するとないである」「IZ」。

私たちは一等賞・切り札を引き当てたのです。このことがはっきりと分からないときには、何かが邪魔をしているわけですから、心の内を糾明してみましょう。おそらく、信仰が薄く、神との個人的な付き合いるからずが足りない毎日を送っているからでしょう。主の御母であり私たちの

(ホセマリア・エスクリバー『神の 朋友』38)

私たちの信仰は、地上のすべての 美・寛大さ・真の人間性を無視しないことがわかります。生活の目的は、ただ単に自己の利益や喜びだ自己を求めることではなく、犠牲とにも放棄による真の愛を求めることを変しなったちもしまうに、あなたたちも真と行いをもって神と人々を愛しなさ い、と主は招いておられるのです。 マタイはこの招きを、「自分の命を 得ようとする者は、それを失い、わ たしのために命を失う者は、かえっ てそれを得るのである」[13]と、逆説 的な言葉で伝えています。

ただ自己のことのみ考え、すべてを さしおいて自己満足のためにのみ行 動する人々は、自己の永遠の生命を 危険にさらしているだけでなくく の世においても不幸で気の毒なを です。既婚者の場合も、自己を れ、神と隣人に仕える人のみぶれの 世で幸福を見出し、天国の前ぶれの ような喜びをも味わうことがである のです。

地上の道を歩いている間の苦しみは 愛の試金石です。結婚生活には二つ の面があると言えます。一方は、お 互いに愛し合うことを知る喜び、家 庭を築き成長させていく夢、夫婦 愛、子どもの成長をみる喜び。他 方、悲しみと困難、時間が経つにつれて現れる体力の衰えや欠点、単調で変化のない生活などです。

このような困難に出合ったとき、愛と喜びが終わると考えるのは、結婚や人間の愛について軽薄で貧弱な考えしか持っていない証拠です。お互いの人間性がその自然性を表しぶつかり合う時こそ、自己放棄と優しさを示し、死よりも強い[14]真の愛情を表すべき時だからです。

(ホセマリア・エスクリバー『知識の香』24)

- [1] マタイ10・38
- [2] ガラテヤ2・19
- [3] ニコリント4・7
- [4] ニコリント4・8-10

- [5] マタイ15・25
- [6] 詩編118・49-50参照
- [7] ヨハネ15・5参照
- [8] フィリピ4・13参照
- [9] 詩編118·168参照
- [10] ヨブ5・9参照
- [11] 知恵7:14参照
- [12] マタイ10・39
- [13] マタイ10・39
- [14] 雅歌8·6参照

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/sei-josemaria-sekkyo-matai-10-38-39/(2025/12/11)